

藤崎狭窄部周辺環境

築堤

狭窄部対策



紀仙郷県立自然公園
流し雛が3月に行われる

藤崎狭窄部周辺の環境

築堤

狭窄部対策

【河道内について】

- 藤崎井堰が築造される前には現在の堰の位置の上下流には寄洲が発達していた。
- 現在、堰の堰の直上部は湛水域となっているが、湛水域の上流及び藤崎井堰の下流部には砂礫洲が形成されている。
- 河床は石質であり、おもに浮き石となっている。
- 堰上流側にはワンドが見られ、生物の重要な生育場所となっているものと考えられる。
- 名平川合流部には「藤崎の法華経岩」がある。
- サギ類の集団ねぐら、カモ類の集団越冬地がある。

【河川敷について】

- 発達した中州にはヤナギ林、ヨシ・ツルヨシ群落、砂礫地などが成立しており、近年大きな洪水が起こっていないことを伺わせるとともに、様々な生物の生息場所になっているものと考えられる。

